



映画雑感 9

柴生田 晴四

(経済倶楽部理事長)

▼2019年前半に鑑賞した邦画から。昨年暮れ公開の「こんな夜更けにバナナかよ」。筋ジストロフィーで身体の自由を失った青年が病院を飛び出してボランティア頼りの一人暮らしを始めます。あまりに勝手気ままでわがままな彼に驚きますが、やがて、必死に人生を全うしようとする彼の生きざまに惹かれていくボランティアと同じ体験を、見る側もすることになります。

▼「夜明け」は、是枝裕和、西川美和の助監督を務めた広瀬奈々子の初監督作品。是枝監督の「誰も知らない」で主役を演じた柳楽優弥を主人公に迎え、暗い過去を抱えた青年が、偶然彼を助けた初老の男との生活の中で次第に生きる意味を見出していく過程を描きます。

▼詩人北原白秋の破天荒な半生を描いた「この道」は、やや冗漫で平凡な語り口でしたが、主人公の童心を宿したビュアな詩人魂を見事に造形した大森南朋には好感が持てました。

▼自殺願望を持つ若者たちがネット上の呼びかけに応じて集まる「十二人の死にたい子供たち」。主催者の提案で各自が自らの死にたい理由を吐露し、他のメンバーの遠慮のない突込みさらされます。いまが旬の若手俳優た

ちの個性がぶつかり合う会話劇は、やがて衝撃的というよりは、健全な結末に導かれます。

▼今年も若者向けの難病もの恋愛映画が相次いで製作されました。お涙頂戴の悲劇ではない、前向きに生き抜く明るい難病ものが主流になりつつあるようです。中島美嘉のヒット曲をモチーフにした「雪の華」は、余命宣告を受けた主人公が自転車のひたくりから助けてくれた青年に100万円と引き換えに1か月だけの恋人を演じてくれるように頼みます。内気で生きることには不器用だった主人公が青年との交際の中で人生を取り戻していきまます。中条あやみと登坂広臣がありえないお話を美しいファンタジーに変えてくれました。

▼「小さな恋のうた」は沖縄出身のバンド「M

ONGOL2000」のヒット曲をモチーフにした作品。米軍基地のある沖縄の小さな町でバンド活動に打ち込む高校生たち。観衆を熱狂させる実力を認められてプロデビュウを果たす直前に、作曲とベースを担当していた仲間がひき逃げ事故で死んでしまいます。大人たちの思惑を超えて音楽に向きあう若者たちを鮮烈に描いています。

▼「長いお別れ」は、認知症で次第に記憶が失われていく父親を見送る母と娘二人の物語。山崎努はもとより、妻を演じた松原千恵子、対照的な姉妹を演じた竹内結子と蒼井優が実力をいかんなく発揮。驚き悲しみながらも、時に愛おしくユーモラスな老いと向き合う家族を見事に造形しました。